

外交史料館ニュース

一、外交記録公開

「外交記録公開に関する規則」(平成二四年外務省訓令第一九号)に基づき、平成二五年内に以下のとおり外交記録公開を実施した(対象ファイルの目録および概要は外交史料館ホームページにてご覧いただけます)。

- | | | |
|----------|------------|-------|
| ① 一月三一日 | 通常審査対象ファイル | 一〇〇二冊 |
| ② 三月七日 | 特別審査対象ファイル | 五二冊 |
| ③ 三月二九日 | 通常審査対象ファイル | 一〇〇二冊 |
| ④ 五月三一日 | 通常審査対象ファイル | 八一〇冊 |
| ⑤ 七月三一日 | 通常審査対象ファイル | 六一三冊 |
| ⑥ 九月三〇日 | 通常審査対象ファイル | 六二六冊 |
| ⑦ 一〇月三〇日 | 特別審査対象ファイル | 九二冊 |
| ⑧ 十一月二九日 | 通常審査対象ファイル | 六八四冊 |

なお、特別審査対象ファイルの公開では、継続的に公開している沖縄返還交渉、日米貿易経済合同委員会、第一回主要国首脳会議(ランブイエ・サミット)のほか、国連軍の地位協定に関するファイルが初めて公開された。

二、所蔵記録のマイクロフィルム、デジタル化の実施

平成二四年度より、「公文書の管理に関する法律」第一五条第一項(国立公文書館等の長は、特定歴史公文書等について、第二五条の規定により廃棄されるに至る場合を除き、永久に保存しなければならない)の履行を目的として、利用のための所蔵記録の代替化(マイクロフィルム化およびデジタル化)を行うこととなった。

平成二四年度は、昭和戦前期外務省記録M門(官制、官職)の前半部分(分

類番号M1101第一巻～M2201-33第四巻)を対象としてマイクロフィルム化およびデジタル化を実施した。

三、展示

平成二四年一月五日から二五年七月一七日まで、これまでにホームページに掲載してきた「外交史料Q&A」の中から幾つかの質問を選んで関連史料を展示した「外交史料館に聞いてみよう!」『外交史料Q&A展』を行った。また、平成二五年七月二日から二六年五月八日まで、特別展示「日本とスペイン―外交史料に見る交流史―」を開催中である(両展示の詳細については、本号所収の記事を参照)。

四、連携展示

平成二五年三月三〇日から四月一八日まで、独立行政法人国立公文書館、宮内庁宮内公文書館および当館の三館による連携展示「近代国家日本の登場―公文書にみる明治―」を開催した。当館は、明治初期の近隣外交、条約改正交渉、条約改正の達成、日清戦争、日露戦争に関する項目の展示を担当し、明治期日本の外交活動を紹介した。

五、第二二回外交文書編纂者国際会議(二〇二三年ジュネーブ会議)への参加

平成二五年一〇月一日から五日まで、第二二回外交文書編纂者国際会議(Twelth International Conference of Editors of Diplomatic Documents)がスイスの主催により同国ジュネーブにて開催された。

本会議は、平成元年の第一回ロンドン会議以来、隔年ごとに各国の外交文書編纂担当者が参加して開催されており、今回の会議には、わが方をはじめ、欧米諸国を中心に二六カ国の外交文書担当者などが参加した。

編集後記

ここに『外交史料館報』第二七号をお届けします。

本号では、平成二五年三月二二日に外交史料館講堂において開催しました後藤乾一・早稲田大学名誉教授による講演会「アジア太平洋戦争と東南アジア」の記録を掲載しています。本講演では、日本と東南アジアの関係につき、一九三〇年代における日本の「南進」の加速化、太平洋戦争期における日本の東南アジア占領政策等に着目し考察すると共に、占領期をめぐる日本と東南アジアの今日的な歴史認識についてインドネシアのケースを中心に紹介していただきました。

また、同年九月二〇日には、潘亮筑波大学准教授をお迎えして、研究会「冷戦期日本の国連外交―チャンスとジレンマの狭間で―」を開催しました。本研究会では、冷戦期日本の国連外交の意義や問題点について、日本がいかに国連を通じて自国の政策目標を追い求め、国連内において影響力の拡大を図ろうとしたのか等、具体的事例を取り上げつつ考察しています。

さらに本号では、波多野澄雄編纂委員長による論文「沖縄返還と台湾・韓国」を掲載しました。本論文では、沖縄返還交渉プロセスにおいて、台湾・韓国による沖縄の基地機能低下への懸念がどのように受けとめられ、六九年一月の佐藤・ニクソン共同声明と関連声明にどのように反映されたのか等につき、外務省が近年公開した外交記録に依拠しつつ論じています。

また、服部龍二編纂委員は「大平・蒋介石・沈昌煥会談記録―一九六四年七月」と題して、外交記録「大平外務大臣中華民国訪問関係（一九六四・七）」第一巻に収録された史料、大平・蔣会談および大平・沈会談の記録を紹介しました。

このほか、平成二五年三月の『日本外交文書 第二次欧州大戦と日

本』シリーズ全三冊の刊行完了にちなみ、同シリーズの編纂にかかわった担当者が、所収文書から見た欧州大戦への日本の対応方針につき座談会形式で考察した記事や、『日本外交文書 第二次欧州大戦と日本第二冊 大戦の諸相と対南方施策』の概要も掲載しています。また、平成二五年に当館別館で開催された企画・特別展示の解説記事、独立行政法人国立公文書館、宮内庁宮内公文書館および当館の三館による連携展示「近代国家日本の登場―公文書にみる明治―」についての報告、さらに黒田瑞大館長代理が当館別館図書室に保管されている吉田茂元総理の蔵書を紹介したエッセイなども併せて掲載しています。

そして末筆となりましたが、本号刊行にご尽力いただいた関係者の方々に感謝申し上げますとともに、読者のみなさまの今後より一層のご教示をお願いいたします。

〈掲載論文などの論旨は、執筆者個人の見解であって、外務省の公式見解ではありません。また、戦前期に使用された一部用語を歴史的用法としてそのまま使用しています。〉

外交史料館報 第二七号

平成二五年十二月二十七日

編集発行 外務省外交史料館

東京都港区麻布台一―五―三
電話 〇三―三五八五―四五一

印刷 東京都大田福祉工場

東京都大田区大森西二―二二―二六